

弓道いばらき

平成3年4月第15号

発行所 猿島郡三和町緒川 1401-1
茨城県弓道連盟
電話 (0280-76-0939)

確固たる気迫を込めて 向上・発展を

副会長 矢吹三郎



次弓連会報として『弓道いばらき』を発刊してから十年の節目を超えた。この間、いろいろの変遷があつて悲喜交々、いまその情景を追慕する余猶を持たないことを残念に思うが、それ程に時は進み事は展げつつあると言はざるを得ない次弓連の今日であろう。

関東連会長は、常に『和』の精神を強調し、併せて指導者養成・施設充実・全国的大会誘致等々、弓道の正統な伝承発展に意欲満々である。この次弓連目標の達成には、当然会員の拡充と内容の堅実が要求されるので執行部は一日たりとも安息は許されないとと思う。幸い現態勢にあつては各自それぞれが会長の意を体し、これに応えて頑張りつづけているのを見て安堵する者の一人であるが、さて一度県外に目を転じ、振り返って反省するとき、決して安閑としてはいられない思いがする。

成程、今次県体協創立六十周年記念誌へ掲載の弓道連盟略史を見る限りでは、順調な発展過程にあると見られる。然しこれに満足して良いのだろうか。私は思う。茨城のレベルは、鼻負目に見ても中の下である。他の優秀地連には、厳しさと熱っぽさを感じられ、その結果は会員数と昇段(格)者の合格率に表われていることに注目し、反省すべきであると痛感する。

故に吾人は、弓道修業の端緒は何であれ、初めたからには目先の誘惑に促はれず、真髓に逼る強固な心根を持つべきであることは言うまでもなく、日本弓道は『正射正中』を鉄則とする、それにはごまかし、妥協は絶対やらない、正しく引分け・正しくねらう。身体で張合うことに専念する以外に何も無い。言い替へれば「中てるな、中る射を引け」と強調するところである。今からでも遅くない。追い付け、追い越せの気迫で日頃の稽古を厳しく、謙虚な反省のもとに精進しよう!!

以上誌面をお借りして提言します。

茨城県弓道史年表(1)

広報 小野崎 紀男

昭和 21 年

- 2月8日 「大日本武徳会」が民間団体となる。
- 3月1日 沢井利平 没(60)
- 10月15日 常南弓道振興会競射会
- 11月1日 「全国弓道連盟」結成
- 11月9日 「大日本武徳会」に解散命令
- 11月16日 日製水戸工場弓道場新設(大和道場)
- 祝賀射会
- 12月8日 「石岡弓道連盟」結成式

昭和 22 年

- 1月2日 茨城県弓道連盟鹿島支部射初会
- 3月10日 平山雄次郎 没(63)
- 5月25日 鹿島神宮奉納弓道人会
- 6月15日 笠間弓友会復活
- 8月2日 第1回勝田五十射会
- 8月22日 笠間弓道会月例射会
- 9月7日 保内郷脚弓友会発会
- 9月30日 笠間弓道会中秋射会
- 10月5日 保内郷脚弓友会射場落成祝賀競射会
- 10月12日 水戸清心館矢場開き射会
- 11月18日 笠間弓道会菊祭り射会
- 12月27日 笠間弓道会納会

昭和 23 年

- 1月17日 第2回勝田五十射会
- 1月27日 小山徳太郎 没(64)
- 3月7日 茨城・福島県対抗弓道試合
- 3月14日 「茨城県体育協会」結成式

3月27日 小山松吉 没(80)
 4月29日 鹿島神宮弓道大会
 5月8日 第2回弓連全国弓道大会

5月8日 笠間弓道会藤見射会

7月12日 根本瑛 没

7月13日 「全国高校体育連盟」結成

8月24日 第3回勝田五十射会

8月24日 笠間弓道会例会

9月12日 第2回東北体育大会兼第3回団体県予選

9月18日 水戸八幡宮流鶴馬

9月23日 鹿島神宮体育会第1回弓道大会

10月27日 笠間治功神社例祭遠矢大会

11月3日 土浦体育協会県下招待弓道大会

11月28日 県下弓道大会

昭和 24年

2月1日 笠間弓道会新春射会

2月23日 鹿南体育振興会結成

3月13日 鹿南体育会武道大会

3月21日 東部実業団弓道大会

3月3日 渡辺昇吾 没(63)

4月15日 笠間桜まつり弓道大会

4月29日 鹿島神宮弓道大会

5月3日 土浦弓友会一周年大会

5月22日 「日本弓道連盟」設立

6月16日 笠間弓道会夜間射会

6月 磯原弓道場開き

7月5日 第四回勝田五十射会

夏 「日本弓道研究会」創設

茨城県弓道連盟略史

副理事長 介川 達

I 設立年月日

設立 昭和22年5月1日
 (再建 昭和32年5月10日)

II 設立の経緯

弓道は日本の歴史とともに継承され、発展してきた。戦国時代は武器として工夫考案され、長い年月と多くの人々によって系統づけられ、武術として発達し、更に各流派の誕生により射術・礼法が向上したが、明治維新とともに弓術は壊滅にひんしたときもあった。だが、大日本武徳会が明治28年に創立され、心身鍛練のため奨励され、国民に親しまれて長足の進歩をとげた。

現在、茨城県弓道連盟は第7代会長関宗長を中心として活動している。現代の弓道は弓道そのものを楽しむことであり、弓道によって、われわれの日常生活を豊かにすることもあり、学生にとっては体育として身体の発育向上に、また精神鍛練の糧としても、より高いものを求めることが可能であり(学校弓道は昭和26年より中学校以上)に実施された)、また一般の人達にも健康的であり、老若男女を問わず高い指標をもって参加することが出来る。

現在の県弓道連盟は第7代会長関宗長を中心として活動している。現代の弓道は弓道そのものを楽しむことであり、弓道によって、われわれの日常生活を豊かにすることもあり、学生にとっては体育として身体の発育向上に、また精神鍛練の糧としても、より高いものを求めることが可能であり(学校弓道は昭和26年より中学校以上)に実施された)、また一般の人達にも健康的であり、老若男女を問わず高い指標をもって参加することが出来る。

IV 競技人口の推移・沿革

戦後発足した本県の弓道連盟は、武徳会の流れの中で各流派を集めて、初代会長志村国作(水戸市)等を中心にして発足したものの、全日本弓道連盟との意見の相違等により、不幸な一時期はあったが、2代会長中野慶吉(笠間市)等の努力により混迷から脱却した。

III 歴代会長(戦後)

i 会長	担当期間	ii 副会長	担当期間	iii 理事長	担当期間
初代 志村国作	(昭和22年~昭和32年)	1 島田為五郎	(昭和22年~昭和26年)	初代 峰四七三	(昭和22年~昭和32年)
2代 中野慶吉	(昭和32年~昭和37年)	2 中野 慶吉	(昭和26年~昭和31年)	2代 奥崎喜六	(昭和32年~昭和36年)
3代 奥崎喜六	(昭和37年~昭和39年)	3 吉田金太郎	(昭和32年~昭和36年)	3代 白土英章	(昭和36年~昭和38年)
4代 大久保保	(昭和39年~昭和42年)	4 須藤 肇	(昭和32年~昭和36年)	4代 小山勇一	(昭和38年~昭和42年)
5代 岡崎儀実	(昭和42年~昭和44年)	5 奥崎 喜六	(昭和36年~昭和37年)	5代 平塚治男	(昭和42年~昭和44年)
		6 鈴木 範彦	(昭和36年~昭和37年)	6代 矢吹三郎	(昭和44年~昭和50年)
		7 鈴木 範彦	(昭和36年~昭和37年)	7代 猪野嘉久	(昭和50年~昭和62年)
		8 大江 宏一	(昭和36年~昭和39年)	8代 木村賢雄	(昭和62年~平成2年)
		9 小林 喜一	(昭和37年~昭和38年)	9代 関根村夫	(平成2年~現在)
		10 坂本平重郎	(昭和37年~昭和41年)		
		11 鈴木 徹	(昭和38年~昭和44年)		
		12 岡崎 儀実	(昭和38年~昭和42年)		
		13 梅原 良助	(昭和44年~昭和49年)		
		14 篠塚 藤吉	(昭和44年~昭和63年)		
		15 矢吹 三郎	(昭和44年~現在)		
		16 平塚 治男	(昭和46年~昭和63年)		
		17 坂倉 茂	(昭和49年~昭和50年)		
		18 大村 寿雄	(昭和50年~昭和63年)		
		19 保立 謙三	(昭和50年~昭和52年)		
		20 猪野 嘉久	(昭和52年~昭和63年)		
		21 部 貞	(昭和63年~平成元年)		
		22 山口 省吾	(昭和63年~現在)		
		23 石塚 治男	(平成元年~平成2年)		
		長命 豊	(平成2年~現在)		

昭和20年代は、事業団(日立製作所・日本鉱業等)や地方弓道人の活躍に負うところが多かった。昭和28年に茨城大学に弓道同好会が発足、この年に登録された有段者は(初段48名、2段48名、3段44名、4段25名、5段31名、6段17名、7段7名)220名であった。

昭和30年代には、中野慶吉範士(会長)のキモ入りで、中学校・高等学校の学校弓道振興のため指導者養成が合宿をおして厳しく行われ、高体連弓道専門部は、昭和32年7校での発足から年々増加し、現在72校が加盟、教職員、高校生とも増加をつづけ、また茨城大学等の参加もあって、本県弓道人の育成を十分果たしてきている。

昭和40年代に入り、茨城国体(昭和49年)に備えて、県弓連組織の拡充、選手強化、施設の充実を計画的に進めた。

また大学等では、筑波大学、流通経済大学などが加わった。

昭和50年、中野慶吉範士十段昇格を機に、会員及び各界から広く浄財を募り、本県弓道人の目標とすべく、一般(中野杯)中学、高等学校(中野優勝旗)を創設、昭和52年から始めた中野杯記念射会は平成2年で14回を迎え、中野杯基金は70万円を有し、本県弓道人の結束としての代表的な行事となっている。

中野慶吉範士は、昭和62年に逝去されたがその高徳は弓道界に残された不朽の業績とともに、燦然と輝くであろう。昭和63年の追善射会は、県内外の弓道人により厳粛、盛大に行われた。

昭和54年から県弓道会報「弓道いば

らき」を発行。(現在15号を数える)

昭和57年茨城県武道館の竣工によって第34回全日本実業団弓道大会(100人規模)、全日本教職員弓道大会、東日本女子弓道大会、関東東部中堅指導者講習会、関東高等学校弓道大会など相ついで開催し、本県の弓道発展に大きく貢献している。またこの年に新設の図書館情報大学が加わっている。

昭和58年、県弓連運営強化のため、総務部、指導部、競技部、審査部、選手強化部の各専門部の再編成を行った。

昭和61年の県弓連登録人員は89名であった。

昭和62年にはパソコンの導入、各専門部の自主運営制度、審議委員会の創設などをおこない、組織・機構の充実をはかった。

昭和63年の県弓連登録人員は99名であった。

現在、各地区、支部活動に加え、中体連弓道専門部、高体連弓道専門部への加盟校の増加、範教練士会、女子部、五段会、高齢者による明正弓道会など自主的な活動も活発になって、県弓道連盟を軸に一体となって着実に効果を収めている。その結果としてか、現在

矢吹三郎、山口吾吾、田原トシの3人

の範士をはじめ、この10年間に称号受有者は61名から98名に、大学の加盟校も6校に、会員登録数も4名と2倍以上になった。

県弓連の努力目標は指導者の養成研修、学校弓道の振興、施設(地域、学校)弓道場の増設、各種大会の開催と成功、弓道人口の増大であり、モットーとして「和」の精神により、相協力して、弓道人としての道を進むこととしている。

称号受有者の推移

錬士 教士 範士 合計

昭和28年	16	7	0	23
昭和33年	29	9	2	40
昭和35年	26	11	2	39
昭和44年	41	21	3	65
昭和47年	42	21	2	65
昭和50年	34	19	3	56
昭和52年	41	22	2	65
昭和54年	50	21	2	73
昭和56年	53	24	2	79
昭和58年	48	24	2	74
昭和60年	55	25	1	81
昭和62年	63	27	2	92
平成元年	68	28	2	98

V 活動状況

戦後、弓道は一時中断されたが、昭和

23年第3回国民体育大会(福岡)の喜一が2位に入賞した。

昭和24年 第4回国民体育大会より弓道が、競技種目に入った。

昭和25年 県としては第5回国民体育大会(名古屋)より参加し、遠的一般女子の部(市毛文子、菊池久美子、助川知子)は3位に入賞した。

昭和26年 この年第1回全国弓道大会が実施され、都道府県対抗団体男子の部(後藤春蔵、小山勇一、石川哲次郎、吉田金太郎、仲野智善)は3位に入賞、団体女子の部(菊池久美子、市毛文子、田中利子)も2位に入賞し、個人女子の部市毛文子が3位に入賞した。

昭和28年 第4回国民体育大会で小林

賞した。

昭和32年 第4回東日本勤労者弓道選手権大会(堺)で日本鋳業日立製作所日立鋳業所(堺郡司一男、後藤春蔵)は団体優勝した。

第4回全日本弓道選手権大会で小林

第8回国民体育大会青年男子の部(五島章、河原井弘正、桜田博慈)は2位に入賞した。

昭和29年 第1回全日本実業団弓道大会で、日立製作所水戸(大井、熱海、大村)が優勝した。

昭和31年 第1回東日本勤労者弓道大会が開催され昭和31年の第1回全日本実業団弓道大会へと発展していき、日立製作所、日本鋳業が充実していた。

昭和32年 この年の第1回全国高等学校弓道大会が開催され、磯原高等学校、日立第一高等学校が参加し上位入賞は出来なかったが、磯原高等学校は大活躍した。

昭和33年 第3回東日本勤労者弓道選手権大会(茨城県日立市で開催)で黒崎勇(日本鋳業日立)が2位に入賞した。

昭和34年 この年の第1回全国高等学校弓道大会が開催され、磯原高等学校、日立第一高等学校が参加し上位入賞は出来なかったが、磯原高等学校は大活躍した。

昭和35年 第4回東日本勤労者弓道選手権大会(堺)で日本鋳業日立製作所日立鋳業所(堺郡司一男、後藤春蔵)は団体優勝した。

昭和36年 第4回全日本弓道選手権大会で小林

昭和33年

第7回日本スポーツ賞に中野慶吉(笠間市)が選ばれた。

明治神宮御選宮奉祝大会一般の部で(小野、市毛、鈴木)は優勝し、

学徒の部で茨城大学(山岸、茂木、緑川)も3位に入賞し、個人で矢野伝が2位に、市毛俊明(水戸市)も3位に入賞した。

昭和34年

第6回東日本勤労者弓道選手権大会で日本鋳業B(田切充、稲辺仁、石綿靖弘)は団体2位に、日本鋳業A(後藤春蔵、永沢洋、郡司一男)も団体3位に、個人第2部で永沢洋(日本鋳業)が3位に入賞した。

昭和38年

第8回全国高等学校弓道大会男子の部で日立第一高等学校(鈴木佑司、大沼政雄、佐藤稔)は3位に入賞した。

昭和39年

第9回全国高等学校弓道大会男子の部で日立第一高等学校(鈴木佑司、稲沢公七、高野重美)は3位、女子の部で那珂湊第二高等学校(木村富子、部ひろ子、斎藤恵子)も2位に入賞した。

昭和35年

第11回全日本弓道大会有段者の部で川崎安之(勝田市)が2位に入賞した。第5回全国高等学校弓道大会女子の部で水戸第3高等学校(飛田、清水、吉岡)は3位に入賞した。

昭和36年

第12回日本弓道大会の技能優秀賞練士の部で川崎安之が2位に入賞した。

この年の第8回全日本勤労者弓道選手権大会で後藤春蔵(日本鋳業)が個人優勝した。

昭和37年

第9回全日本勤労者弓道選手権大会東日本の部で菊池宣(日立製作所日立工場)が個人3位に入賞した。

昭和40年

第16回全日本弓道大会教士の部で小山勇一(水戸市)が3位に入賞した。同年の第16回全日本弓道選手権大会で神長一郎(那珂町)が2位に入賞した。

昭和41年

第11回全国高等学校弓道大会男子の部で取手第一高等学校(松丸勝巳、桜井信一、野村昇)は3位に入賞した。

昭和44年

明治神宮奉納全国弓道大会一般女子で天冨子(笠間市)が優勝した。

昭和47年

第27回国民体育大会(鹿児島)遠的の部で一般男子、監督、篠塚藤吉(菊池宏、久保田清、柴田猛)は3位に入賞した。

昭和48年

第28回国民体育大会(千葉)遠的の部で一般男子の部、監督、藤塚義一(井坂誠、無、東峰守、黒崎春三郎)は3位に入賞した。

昭和49年

県弓道連盟が一丸となって準備を進めてきた。第29回国民体育大会(茨城)国体の弓道競技は潮来町で開催は、

昭和50年

この年の第29回国民体育大会(茨城)国体の弓道競技は潮来町で開催は、近の高校女子の部、監督、小泉隆義(貞谷明美、秋山照子、安島典子)は2位、遠的一般女子の部、監督、猪野嘉久(佐藤朝香、前沢和江、渡辺満知子)も2位、遠的高校女子の部、監督、小泉隆義(古谷明美、秋山照子、安島典子)は優勝した。その結果、茨城の弓道は女子が総合優勝に輝き、男子は総合2位となった。

昭和51年

この年の第30回全日本弓道選手権大会で柴田

昭和52年

この年の第31回国民体育大会(佐賀)近的少年男子の部、監督、小泉隆義(国府田治彦、大内光正、秋野克也)は優勝し、遠的の部も2位に入賞した。

昭和53年

この年の第22回全日本高等学校弓道大会男子の部で中山裕夫(水戸工業高等学校)が個人優勝した。

昭和54年

第29回全日本弓道大会学生男子の部で3位入賞、学生女子の部も2位入賞と筑波大学が活躍し遠的の部で川向洋子(筑波大)が優勝した。

昭和55年

第34回国民体育大会(宮崎)近的少年女子の部、監督、谷島英一(和知葉、篠塚千恵子、山口昌子)は優勝し、遠的少年男子の部、監督、石崎紘一(三那川政秀、前野秀明、石井誠)も共に優勝し、少年男子は2位に、女子は総合で3位に入賞した。

この年の第30回全日本弓道選手権大会

会連的の部学生女子で川向洋子(筑波大学)が優勝した。

第30回全日本弓道大会学生部の部で筑波大学は2位に入賞した。

第24回全国高等学校弓道大会男子団体、監督、照沼勇夫、那珂湊第一高等学校(久州夫、海野徳雄、前野秀明、新庄隆、石井誠)は3位に、女子団体、監督、谷島英二、下妻第二高等学校(脇田豊子、松山美恵子、山口昌子、塚田和江、染谷洋子)は優勝した。

昭和55年

第31回全日本弓道選手権大会で柴田猛(水戸市)が初めて優勝し、天皇杯を茨城県に迎えることが出来た。県弓道連盟では柴田選手をお祝して、県弓道連盟等が多数出席し、盛大に祝賀会を開催することが出来た。

この年の第35回国民体育大会(栃木)遠的少年男子の部、監督、堀武元(大岡健司、新堀誠、浅野勝也)は3位に入賞した。

第31回全日本弓道選手権大会連的の部学生女子で川向洋子(筑波大学)は優勝し、3年連続優勝の大記録を作った。また武田恵理子(筑波大学)も2位に入賞した。第31回全日本弓道大会学生女子の部で筑波大学が優勝した。

第32回全日本弓道選手権大会遠的学

昭和56年

生男子の部で芦川裕一(筑波大学)が優勝した。第32回全日本弓道大会学生男子で筑波大学は2位に、学生女子でも筑波大学は2位に、有段者の部で立川久泰(常陸太田市)が3位に入賞した。

昭和57年

この年の第29回全日本表業団弓道大会で個人優勝した、小泉民男(日本原子力研究所)の32点(4射)の記録は現在も破られていない。第26回全国高等学校弓道大会団体女子の部監督、谷島英一、下妻第二高等学校(飯島里美、森初枝、中山信子、野村真知子、広瀬真由美)は2位に入賞した。

第33回全日本弓道選手権大会学生男子の部で松尾牧則(筑波大学)が優勝した。この年の第37回国民体育大会(鳥根)近的少年男子の部、監督、柴田猛(佐藤政弘、勢子正弘、松崎宏信)は2位に入賞し、少年女子の部、監督、堀武元(小野寺孝子、古沢久美子、小見宏美)も3位に入賞し、遠的青年男子の部、監督、猪野嘉久(小泉民男、市野沢穂二、関島勝)は優勝し、少年男子の部、監督、柴田猛(佐藤政弘、勢子

正弘、松崎宏信)も優勝し、茨城県弓道は男女総合で優勝に輝いた。この大会で近的・遠的の23射23中(皆中)の記録を作った一般男子の関島勝は、茨城国体24射24中の久保田選手と並ぶ大記録を作り、総合優勝の原動力となった。第27回全国高等学校弓道大会女子個人で上杉智子(日立第一高等学校)が優勝した。第1回全国高等学校弓道選手権大会男子の部、監督、堀武元、鉢田第一高等学校(上野猛、勢子正弘、明石隆典)は3位に入賞した。

昭和58年

第34回全日本弓道選手権大会で柴田猛(水戸市)が2位に入賞した。この年の第38回国民体育大会(群馬)遠的成年女子、監督、堀武元(高柳さえ子、吉田久美子、森初枝)は3位に入賞した。第28回全国高等学校弓道大会女子個人で小堀多喜子(下妻第二高等学校)が2位に入賞した。この年に実施された第2回関東高等学校選抜個人選手権で、北総高等学校の高橋輝子は決勝射撃で31連中を達成し優勝したが、今でも、この記録は破られていない。

昭和59年

第35回全日本弓道選手権大会連的学

生女子の部で綾部香子(筑波大学)が優勝し、田中朝子(筑波大学)も2位に入賞した。この年の第35回全日本弓道大会錬士の部で沢田恒弥(土浦市)が2位に入賞した。

第36回全日本弓道選手権大会遠的学

昭和60年

第37回全日本弓道大会範士の部で矢吹三郎(那珂湊市)が2位に入賞した。この年の第41回国民体育大会(山梨)近的成年男子、監督、猪野嘉久(小泉民男、関島勝、久保田清)は2位に入賞した。第34回全日本実業団弓道大会は県及び水戸市並びに関係各位の協力により、茨城県で始めて開催された。大会の参加は都道府県で21、86事業所、136チームの22名の選手、75名の役員ほか関係者を含めて約100名が参加した。入場式では県立大洗高校生徒のプラスチックの見事な演奏によって、各事業所旗のもと参加全選手による入場行進があった。矢渡し吉田金太郎教士、祝射礼県弓連副会長矢吹三郎範士(介添市毛道子教士、海老根芳江錬士)のち25人立の特設射場で2日間わたって実施された。県では10事業所20チームが参加した。成績は団体女子の部で日本原子力研究所C(石川紀子、黒羽根孝、高橋澄江、木村真弓、小泉公子、綿引康委)は3位に入賞した。

昭和61年

この年の第40回国民体育大会(鳥取)遠的少年女子の部、監督、堀武元(黒沢美紀、柴弥寿子、飯塚浩美)は3位に入賞した。第39回全日本弓道選手権大会連的学

生男子の部で小峯正明が優勝し、学生女子の部で松田京子が2位、渡部智恵も3位と(筑波大学)それぞれ入賞した。

第39回全日本弓道選手権大会連的学

昭和62年

第42回国民体育大会(沖縄)近的成年男子、監督、引間弘(小泉民男、関島勝、久保田清)は優勝し成年男子総合3位に入賞した。国体近的優勝は名表ともに日本一であり、決勝戦のようはテレビでも放映された。県弓連では、この名譽ある優勝を祝して盛大に祝賀会を開催した。

昭和63年

第39回全日本弓道選手権大会連的学

生男子の部で小峯正明が優勝し、学生女子の部で松田京子が2位、渡部智恵も3位と(筑波大学)それぞれ入賞した。

第39回全日本弓道選手権大会連的学

第39回全日本弓道大会学生男子の部
で筑波大学が優勝し、女子の部で市毛
道子(水戸市)も優勝した。

第33回全国高等学校弓道大会で水戸
第3高等学校、監督、白石直之(馬日
理恵子、小野瀬久恵、高杉晴美、川崎
由美子、八木一枝)は3位に入賞した。

平成元年

第40回全日本弓道選手権大会遠的学
生男子の部で原田健司(筑波大学)が
優勝した。

第1回全国大学弓道選抜大会男子団
体で筑波大学が2位に入賞した。

以上全国大会の3位以上の入賞を列
記したが、いま県弓道連盟も成熟期に
入り、現在全日本弓道界では中野慶吉
以降矢吹三郎範士が弓道連の指導委員
会委嘱講師として、各県の講習会に講
師として参加し、日弓連としての活動
に頑張っている。県でも副会長として
精力的に活動している。

一般会員では、全日本弓道選手権大
会(天皇杯)の優勝、国民体育大会で
の総合優勝、近的優勝、遠的優勝とそ
のほかでも優勝している。

大学では筑波大学が大活躍で、団体
個人とも優勝回数をのばして、輝やか
しい戦績を残している。

高等学校も国民体育大会での近的優
勝、遠的優勝と全国大会での優勝と上
位入賞を果し、全体のレベルが向上し

ている。
これも県弓道連の指導者及び大学、高
等学校の顧問、監督各位の努力精進の
結果と思う。

これから更に、県弓道連会員各位の射
法、射技が向上して、継続した発展を
心から切望するものである。

VI 活躍した選手

i 小林喜一 (故人)

昭和26年第2回全日本弓道選手権大
会3位入賞
昭和28年第4回全日本弓道選手権大
会2位入賞

昭和27年勝田市長杯50射会で47中で
優勝
県弓道連の副会長として活躍された。

ii 後藤春蔵 (岡山県倉敷市在住)

昭和25年第1回全国弓道大会で3位
入賞、第8回勤労者弓道選手権大会で
優勝、県代表として国民体育大会等に
多年にわたり参加、県実業団弓道連盟
(日本鉱業職員)としての代表的選手
として活躍。

iii 神長一郎 (故人)

昭和40年第16回全日本弓道選手権大
会2位入賞

オリンピック東西対抗一般男子の部
に出場、全日本弓道連盟事務局員を務
められた。

iv 柴田 猛 (水戸市在住)

昭和45年全国教職員弓道大会で優
勝
昭和46年全国日本教職員弓道大会で優
勝

vii 小泉民男 (東海村在住)

昭和57年第37回国民体育大会遠的成
年男子優勝
昭和61年第41回国民体育大会近的成
年男子2位入賞
昭和62年第42回国民体育大会近的成
年男子優勝
全日本実業団弓道大会近的一般男子
記録保持者
団体選手として多年にわたり活躍

昭和50年第26回全日本弓道選手権大
会2位入賞
昭和51年第27回全日本弓道選手権大
会3位入賞
昭和55年第31回全日本弓道選手権大
会優勝
昭和58年第34回全日本弓道選手権大
会2位入賞

v 久保田清 (藤代町在住)

昭和61年第41回国民体育大会近的成
年男子2位入賞
昭和62年第42回国民体育大会近的成
年男子優勝
団体選手、全日本の県代表選手とし
て多年にわたり活躍

vi 関島 勝 (那珂町在住)

昭和57年第37回国民体育大会遠的成
年男子優勝
昭和61年第41回国民体育大会近的成

年男子2位入賞
昭和62年第42回国民体育大会近的成
年男子優勝
団体選手として多年にわたり活躍

vii 小泉民男 (東海村在住)

昭和57年第37回国民体育大会遠的成
年男子優勝
昭和61年第41回国民体育大会近的成
年男子2位入賞
昭和62年第42回国民体育大会近的成
年男子優勝
全日本実業団弓道大会近的一般男子
記録保持者
団体選手として多年にわたり活躍

昭和50年第26回全日本弓道選手権大
会2位入賞
昭和51年第27回全日本弓道選手権大
会3位入賞
昭和55年第31回全日本弓道選手権大
会優勝
昭和58年第34回全日本弓道選手権大
会2位入賞

v 久保田清 (藤代町在住)

昭和61年第41回国民体育大会近的成
年男子2位入賞
昭和62年第42回国民体育大会近的成
年男子優勝
団体選手、全日本の県代表選手とし
て多年にわたり活躍

vi 関島 勝 (那珂町在住)

昭和57年第37回国民体育大会遠的成
年男子優勝
昭和61年第41回国民体育大会近的成

平成二年度
講習会実施状況
指導部長 張替謙一

県内講習会
7月1日 四・五段(水戸) 53名
7月29日 伝達(水戸) 43名
10月21日 関東地域指導者茨城(水戸) 39名
3年2月10日 三段以下(水戸) 44名

県外講習会
6月22・24日 女子東部地区(留辺蘂) 2名
7月20・22日 関東地区北部中堅層指
導者(大宮) 4名
10月11・14日 全日本弓道連盟上級指
導者(大宮) 4名
3年3月2・3日 全関東地域指導者
(大宮) 7名

地区講習会
7月15日 石岡(石岡) 21名
7月22日 水戸(友部) 19名
10月14日 鹿行地区伝達(神栖) 26名
3年1月13日 水戸(友部) 23名
1月27日 土浦(土浦) 25名
3月10日 県北(常陸太田) 22名

(広報) 連絡先 宮崎康美・小野崎紀
男・松尾牧則・坂本直子・介川達

講習会参加総数 322名

高体連 専門部

- ◎ 審判講習会（県武道館） 7月21日(土)～22日(日) 33校42名の生徒が参加
- ◎ 弓道実技指導者講習会（県武道館） 8月11日(土)～12日(日) 15名参加
- ◎ 選手強化合同研修会（県武道館・茨城東高合宿所） 1月26日(土)～27日(日) 28名の生徒が参加

平成2年度 大会成績

競技部長 天 冴子

平成二年度、七回の大会を実施いたしました。地区、支部会員各位の御支援と御協力に感謝申し上げます。平成3年もなお一層の御協力をいただけますようお願いいたします。

月日	大会名	種別	第1位	第2位	第3位	参加人員
4/5	勤労者大会	団体	日立電線 A	三菱化成 A		54名
		個人	小泉民男（原研）			
4/22	春季大会	団体	那珂湊 A	つくば B	石岡 A	205名
		個人男子	川崎 信（百里）	村上久行（日立電線）	宮本辰男（那珂湊）	
		個人女子	石川亜耶子（石岡）	宮田美枝子（下館）	立谷和子（神栖）	
		称号者	明間 勲（土浦）	村越憲一（大洗）	山口省吾（麻生）	
5/20	遠的大会	個人男子	川瀬政人（神栖）	根本信哉（日製日立）	松尾牧則（つくば）	81名
		個人女子	川田敏枝（下館）	荒木玉枝（勝田）	天 冴子（笠間）	
6/24	県民総体大会	個人成年男子	清水 勉（筑波大）	畠山一夫（流通大）	前野秀明（那珂湊）	229名
		個人成年女子	西連地あけみ（日製多賀）	川田敏枝（下館）	内藤澄子（大子）	
		称号者	久松正己（竜ヶ崎）	明間 勲（土浦）	赤津 徳（土浦）	
8/26	青年大会	団体	久 慈 郡	鹿 島 郡	日 立 市	21名
9/9	中野杯大会	個人成年男子	清水 勉（筑波大）	辻松秀利（水戸）	沓掛忠三（原研東海）	260名
		個人成年女子	原井貴子（筑波大）	斎藤登貴子（筑波大）	飯塚裕美（つくば）	
		称号者	根本信哉（日製日立）	堀 雄光（土浦）	明間 勲（土浦）	
10/28	支部対抗大会	団体	茨 大 教 職	水 戸 B	那 珂 湊 ・ 三 和	108名

<県外競技大会成績>

(一般)

- 5月27日 第27回 全日本女子大会（東日本）
第2位 田原トシ（土浦）
- 7月11日 第28回 関東教職員大会
団体1位 荻原裕一、前野秀明、栗原博明
- 9月22日 第41回 全日本選手権大会
第4位 張替謙一
- 10月21日 第34回 全日本実業団大会
女子3位 黒羽根成子（東海村役場）
- 10月21日 第10回 全日本実業団遠的大会
女子3位 小泉紀子（原研）
- 11月3日 明治神宮奉納全日本大会
有段者の部1位 今村好男（茨大教）



(大学)

5月1日 第39回 住吉大社全国大会
 男子団体2位 筑波大
 女子団体3位 筑波大
 5月3日 第2回 全国大学選抜大会
 女子団体2位 筑波大
 6月2日 全関東学生大会
 男子団体1位 筑波大
 8月3日 第38回 全日本学生選手権大会
 男子団体3位 筑波大

(高校)

8月3日 全国高等学校総合体育大会
 女子団体3位 茨城東高校
 10月24日 第45回 国民体育大会
 近的少年の部 団体8位
 吉田浩二(茨城東)
 栗崎武志(下妻一)
 野沢 力(下館一)
 3月23~24日 全国高等学校選抜大会
 男子団体3位 清真学園高等学校
 重藤良平 山辺俊樹 寒藤泰典

高体連専門部長 青木 一男

	大会名	種別	1位	2位	3位	参加
5 / 11 / 12	県高校春季大会兼 関東大会予選会	男子団体	下館一 A	江戸川	水海道一 A	31校 48チーム
		女子団体	下妻一 A	佐和	江戸川	34校 39チーム
		男子個人	斉藤佳一(下館一)	永作悟史(玉造工)	楠井庸貴(江戸川)	/
		女子個人	石井幸子(茨城東)	増田佳子(下妻一)	小林万里子(佐和)	
6 / 15 / 17	全国高校総体県予 選兼県民総体兼国 体茨城大会兼県高 校総体	男子団体	下館一	玉造工	緑岡	52校 50チーム
		女子団体	茨城東	下妻一	那珂湊一	59校 57チーム
		男子個人	武内 晃(高萩)	菊池真人(佐竹)	町田俊明(緑岡)	/
		女子個人	谷上良木(下妻一)	石井幸子(茨城東)	植田智美(那珂)	
8 / 27 / 28	県個人選手権大会 兼関東個人選手権 大会県予選	男子総合	渡辺 昭(八郷)	楠井庸貴(江戸川)	栗崎武志(下妻一)	196名
		女子総合	宮谷育美(土浦三)	矢作典子(湊一)	君和田織枝(鉾田二)	150名
		男子一年生の部	渡辺 昭(八郷)	富田健一(茨城)	島山 潔(江戸川)	/
		男子二年生の部	栗崎武志(下妻一)	大内直人(土浦一)	武内 晃(高萩)	
		男子三年生の部	楠井庸貴(江戸川)	斉藤佳一(下館一)		
		女子一年生の部	長谷川淳子(水戸二)	関根恵美(下館一)	関口由紀子(愛国)	
		女子二年生の部	宮谷育美(土浦三)	矢作典子(湊一)	君和田織枝(鉾田二)	
女子三年生の部	武谷裕子(東牛久)	根本早苗(岩瀬)	大和田久代(結城一)			
9 / 28	県高校秋季大会兼 中野優勝旗記念弓 道大会	男子団体	土浦一	高萩	竹園	48校 48チーム
		女子団体	水戸二	土浦一	茨城東	55校 54チーム
		男子個人	武内 晃(高萩)	加藤広詞(高萩)	細田慶介(土浦一)	/
		女子個人	宮谷育美(土浦三)	鮫島千青(土浦一)	永田恵美子(筑波)	
11 / 6 / 11 / 10	県高校弓道新人大 会兼全国高校弓道 選手権大会茨城県 予選会	男子団体	清真学園	高萩	玉造工A・下妻一A	31校 36チーム
		女子団体	鹿島	下妻一	水戸二・那珂湊一	34校 37チーム
		男子個人	渡辺 昭(八郷)	佐々木 俊(緑岡)	武内 晃(高萩)	/
		女子個人	浅倉小百合(石二)	池田奈織美(鹿島)	堀 亜輝子(下妻一)	

平成二年度活動状況

選手強化部長 柴田 猛

			成男	成女	少年	少女
4/29	国体強化練習会	(成年女子)		○		
5/13	"	(成年女子)		○		
6/2	"	(成年男女)	○	○		
6/17	"	(成年女子)		○		
7/7~8	"	(成年男女)	○○	○○		
7/8~10	"	(少年男女)			○○○	○○○
7/14~15	"	(成年男女)	○○	○○		
7/14~16	"	(少年男女)			○○○	○○○
7/21	"	(成年男女少年男女)	○	○	○	○
7/21~23	"	(少年男子)			○○○	
7/22	"	(成年女子)		○		
7/24~26	"	(少年女子)				○○○
7/29	"	(成年男女)	○	○		
8/2	"	(成年女子)		○		
8/5	"	(少年女子)				○
8/6~8	"	(成年男子少年男女)	○○○		○○○	○○○
8/8~9	"	(成年女子)		○○		
8/12	国体強化遠征	(成年女少年男女子)		○	○	○
8/16	国体強化練習会	(成年女子)		○		
8/18~19	"	(成年男女)	○○	○○		
8/19	国体強化遠征	(少年男女)			○	○
8/21~23	国体強化練習会	(成年女子少年男女)		○○○	○○○	○○○
8/25~26	関東地区予選会	(成年女子少年男女)		○○	○○	○○
9/2	国体強化練習会	(成年男子)	○			
9/9	"	(成年男子)	○			
9/16	"	(成年男子)	○			
9/22~23	"	(成年男子)	○○			
9/30~10/2	"	(成年男子少年男子)	○○○		○○○	
10/8	"	(成年男子少年男子)	○		○	
10/9~11	"	(成年男子少年男子)	○○○		○○○	
10/15~16	"	(成年男子少年男子)	○○		○○	
		延日数	26	23	29	21
10/19~25	大野城市	(成年男子少年男子)	7		7	
		延日数	33	23	36	21
11/23	強化第1回	(男45女子33に通知男22女18参加)				
12/23	強化第2回	(男22女19参加)				
3/10	強化第3回	(男18女17参加)				
3/24	強化第4回	(男18女17参加)				

(○…実施日)

審査部長 赤津 徳

平成二年度は、A審査3回、B審査4回、連合審査1回の合計8回の審査を実施いたしました。

審査員各位及び御協力いただいた会員各位にお礼申し上げます。

結果は下表の通りです。

平成2年度県内審査結果一覧表

段 級	受 審 者 数	合 格 者 数	合 格 率 (%)
級	675	662	98.07
初 段	597	563	94.30
弐 段	389	169	43.44
参 段	110	33	30.00
四 段	104	24	23.07
五 段	138	27	19.56
合 計	2,013	1,478	73.42



総務部だより

昇段、昇格おめでとう

錬士 竹下 孝雄(常陸太田)

七段 張替 謙一(三和)
六段 多田 修三(藤代)

表彰おめでとう

◎県知事表彰

今村 好男(茨大教)

◎県体育協会会長表彰(一般)

田原 トシ(上浦)
黒羽根成子(東海村役場)
小泉 紀子(原研)
今村 好男(茨大教)
萩原 裕一(茨城県教)
前野 秀明
栗原 博明

◎県体育協会会長表彰(大学、高校)

清水 勉(筑波大学)
高橋 雅人
小峯 正明
児玉 桂史
木内 範義

久保 竜司(筑波大学)

宮国 淳

齋藤登喜子

寺田 靖子

松田 京子

吉原貞由美(茨城東高)

石井 幸子

永田真紀子

大内真由美

中村 陽子

小泉 初栄

◎県体育協会会長表彰(優秀指導者)

萩原 裕一(茨城東高)

☆お知らせ

◎新設支部の紹介(口立化)

◎新設弓道場の紹介(取手市営)

☆お願い

各支部長さんへお願い

①会員の登録に変更のある支部は規定の用紙に記入のうえ、早急に総務までご送付ください。

②審査料、会費等の納入について

*払込入 住所 氏名欄には審査料・会費を払込む人ご自身の住所氏名を書いて下さい。

(総務部事務局・会計事務局等の住所 氏名は書かないで下さい)

*裏面通信欄には必ず会費の場合

◎支部◎◎段◎◎名◎◎円
審査料の場合
個人◎月◎日審査

◎◎支部 氏名◎◎段◎◎円

◎◎支部 ◎◎段◎◎名◎◎円

◎◎支部 ◎◎段◎◎名◎◎円

◎◎支部 ◎◎段◎◎名◎◎円

◎◎支部 ◎◎段◎◎名◎◎円

広報では県内の弓道場を調査しております。公、私を問わずお知らせ下さい、写真及び設立等の記録があれば幸いです。

編集後記

関会長の9期目の県議会議員の選挙も会員各位の御支援をいただきまして最高位で当選することができました。ありがとうございます。

弓道いばらき15号にて記載の通り事実を正しく残してゆくための情報をお待ちしております。

これからも更に連盟発展のため各専門部の活動に御協力を心から御期待申し上げます。

編集委員

編集長

- 宮崎 康美
- 介川 達
- 小野崎紀男
- 松尾 牧則
- 坂本 宣子
- 関根 村夫